

平成28年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	附属図書館と地域図書館・施設等を活用した司書教諭養成プログラム —「臨床の知」に基づく読書指導・調べ学習の実践的カリキュラム—
実施組織 (または対象のカリキュラム)	教育学部（国語教育コース他）
※連携する他学部・機関がある場合は記入	教育学部図書館、長野市立図書館、教育学部周辺の文化財・文化施設（石碑、歌碑、往生寺、かるかや山等）
実施責任者(所属)	西 一夫（学術研究院教育学系）
取組の目標	本プログラムの目的は、以下の2点を受けて設定される。 1. 「司書教諭」資格取得関連科目の横断的なカリキュラム検討 2. 関連授業での学修活動を援用した効果 測定 【目的】実践的な活動を「理論と省察の往還」に基づく主体的学修を通して体得することを本プログラムの目的と位置づける。
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	【主体的な活動】 1. 附属図書館の協働学修スペースを活用した展示企画:学生が授業[読解・読書指導論]で作成した図書紹介ポップの展示を行い、受講者のみならず図書館を利用する学生との交流活動を行う（実践会場：附属図書館協働学修スペース）。 2. 読書指導の実践的取組:①新刊図書のポップ作成、附属図書館所蔵本のポップ作成と展示による交流活動(展示会場は附属図書館協働学修スペース、リフレッシュルーム)。 ②「読書生活デザインノート」による読書活動の実践的活動（読書交流・コメント作成作業）。 ③読書指導のゲスト講師（杉本直美氏）を招聘して実践的な読書指導のあり方や現在の施策動向、読書指導のワークショップを開催。 ④紹介冊子「教師の卵が教師の卵に薦める！この1冊」の作成を通して、読書への導入体験。 ⑤言葉の交流スペース「ことばの棚」作成による、学校現場での図書館活動の実践的活動（掲示場所：附属図書館協働学修スペース）。 3. 日本文学基礎[前期]、古典文学史[後期]での文化資産と読書活動:①「西長野の教育と文学」と題する書籍・資料紹介ポスター（A4版1枚）の作成・展示（日本文学基礎）。②「信州の文学」と題するレポート作成と報告会の開催（古典文学史）。 4. 学級経営と学校図書館(夏期集中):地域文化資産を調査・報告するためのフィールドワークを実施。折り本仕立てで「私たちの善光寺縁

		起」を作成して交流会を開催。（非常勤講師：石塚修[筑波大学教授]、サポート教員：西）
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 （達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述）	a. 達成できた	（そう評価する理由） 1. 従来授業を横断的に連携（夏期集中含む）させ、実践的な取組を授業で実践できた。 2. 附属図書館の協働学修スペースを活用して図書館活動の中で本プログラムを位置づける事ができた。 3. 正規授業とフィールドワークとを関連させて具体的な成果物を作成することで受講者からも好評を得た。 4. 実践的取組の評価観点を整理・見直しできた。
	b. <u>おおよそ達成できた</u> c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	
		（今後の展望） 1. 平成 30 年度開講予定の「読解・読書指導論」での主体的活動による授業内容の再検討。 2. 他授業との連携のあり方を検証。 3. キャリア教育としての観点から授業内容を見直す。